



## 新学期が始まりました！

春休みの後、新学期が始まってしばらくは、授業に部活に急に忙しくなったせいか、疲れ切っていて授業中にウトウトする人も見られましたが、最近ようやく生活のペースが整って来たように感じます。



今週末の春季大会から6月の総体までは、一年で一番部活が大変な時期です。そのため部活動の終わる時間が遅くなり、教室の授業時間に間に合わないこともあるかと思いますが、出来るだけ工夫をして、乗り切ってもらいたいと思います。中には学校から直行して、待合室で持参した軽食を摂ってから授業に出るなど、頑張っている人もいます。待合室では飲食して頂くことができますので、どうぞ利用して下さい。

## ゴールデンウィークのお休み

5月3日(金)～5月6日(月)



## 読書コーナー出来ました



先月約束した通り、絵本を待合室に置きました。授業の前や後に自由に読んで下さい。絵本やペーパーバックにはCDがついているものも沢山あり、本棚に置いてあるポータブルCDプレーヤーを使って聞くことができます。読書の注意点は次の通りです。



- ★ 本やCDプレーヤーはていねいにあつかいましょう。
- ★ 本棚から出したものは、きちんと元にもどしましょう。
- ★ 簡単だと感じるレベルの本を、たくさん読みましょう。
- ★ 読んだら必ず読書記録票に記入しましょう。(同じものをくり返し読んだとき、再び記入の必要はありません)



## 多聴・多読とは？



たくさん聞くことを多聴と言い、たくさん読むことを多読と言います。どちらも外からどんどん中に入れる「インプット」の作業です。この「インプット」が十分されていればこそ、自分の思っていることを話したり書いたりする作業、「アウトプット」がうまくいくのです。多聴はリスニングの究極の訓練ですし、多読は読解の訓練に直結しています。また絵本に描かれているいろいろな場面から、外国の文化にも触れることができます。英語を学ぶ上で大事なことが、絵本にはいっぱい詰まっているのです。一人でも多くの生徒が絵本を手に取り、本物の英語を読む楽しさを味わってもらいたいと思っています。



## 年間授業総数

当教室の年間授業数は小学生 46 時間、  
(ハロウィーンなど、特別行事も含む)  
中・高生 92 時間です。



## 英語を水泳の練習に例えると…

今や小・中学生が必ず学ぶフォニックス（文字と音のルール）ですが、このフォニックスを本格的に日本に導入したのは松香洋子先生（旧松香フォニックス研究所創設）です。いつまでも子供の心を持ち続け、ユニークな発想の持ち主なので、講演会ではいつも面白いお話を聞くことが出来ます。松香先生は日本の英語の学習方法を、よく水泳の練習に例えて問題点を指摘します。

「泳ぎ方を習うとき、毎回毎回プールサイドで手の動かし方とかキックの仕方ばかりを練習して、プールに入らなかつたらどうでしょう？泳げるようになるでしょうか？英語も同じで、文法の勉強や問題集ばかりだと、プールサイドの

周りをぐるぐる走っているようなもので。実際に英語を使えるようにはなりません。」



泳ぎが上手になるために一番必要なことは、まず水に入ること！では、英語学習の上で「水に入る」とは、何を意味するのでしょうか？

## 授業中のおしゃべりは英語で！

それは実際に英語を使ってみることです。でも日本で生活していて、英語を話す必要はまずありません。外国人の人と接する機会を持ればいいのですが、学校でALTの先生と話すチャンスは年に数回程度。ないよりましですが全く足りません。だから英語を話す機会を「作る」必要があるのです。英語の授業中はなるべく英語で話すように心がけると、小学生で年間46回。中・高生で年間92回のチャンスが生まれます

## 絵本が英語を救う？

友達との英会話はいつもの同じ場面で行われるので、英語の表現の幅がひろがりません。そこで絵本です！絵本にはいろいろなストーリーと場面が出てくるので、生きた英語に触れることが出来ます。英語のシャワーをたくさん浴びて下さい。簡単な絵本を数多く読んだほうが難しい本を読むよりも実力がアップすることが証明されています。70～80%以上理解できるものが自分に合うレベルです。



Good luck, everyone!

